

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1995年度

1996年3月

柏原市教育委員会

は し が き

昨今、埋蔵文化財に対する関心と理解が深まる中で、一方では誤解を生じることも多いようです。たとえば、遺跡が発見されれば家を建てられない、調査に何ヶ月もかかる、自分の家を建てるにも調査費用をすべて負担しなければならない等の話をよく耳にします。本市では、個人住宅建設に伴う調査は、確認調査であれ、全面調査であれ、すべて国庫補助事業として公費で調査を実施しています。本書は、このような個人住宅建設に伴う緊急発掘調査の概要報告書です。

また、マスコミが取り上げる埋蔵文化財に関する記事は、必ずといっていいほど、全国初、畿内最古、府下最大等の見出しを伴い、読者の興味をそそるように書かれています。そのため、市民から「この遺跡は新聞に載るのか、新聞に載らないような遺跡なら調査をする必要などないのではないか」という声も耳にします。

しかし、大発見は地道な調査の積み重ねによってなされるものであり、このような地道な調査こそ、郷土の過去の歴史像を復元するために、必要不可欠なものであることをご理解願いたいと思います。郷土の歴史像を復元し、私たちの現在の生活について考え、現在の生活に活かしていくことこそ重要であると思います。

今後とも、埋蔵文化財の調査にご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

平成8年3月

柏原市教育委員会
教育長 庖刀和秀

例 言

- 1、本書は、柏原市教育委員会が平成7年度に国庫補助事業（総額2,250,000円、国補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。
- 2、調査は、柏原市教育委員会社会教育課 安村俊史、石田成年を担当者とし、平成7年4月12日に着手し、平成8年3月29日に終了した。
- 3、本書には、平成7年1月1日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち17件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条-2および3に基づく届出・通知がなされたものは252件、その中で発掘調査を実施したものは42件、国庫補助事業として実施したものは25件である。
- 4、本書の編集・執筆は安村が担当した。
- 5、本書図中の方位は磁北、標高はT. P. で表示した。
- 6、調査・整理の参加者は下記のとおりである。

米田 博	山中誠一	橘谷和夫	山田寛顕	長西茂樹	北野 重
寺川 款	生駒美洋子	西島伸彦	百合藤厚子	石橋智成	今村和子
松倉宏憲	山口 剛	奥野 清	長田 勳	谷口鉄治	分才隆司
阪口文子	横原美智子	藤戸康代	有江マヌミ	乃一敏恵	村山ゆき子

目 次

はしがき

例 言

目 次

1995年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧

第1章 平野遺跡	1
95-3次調査	2
第2章 大県南遺跡	3
95-1次調査	4
95-2次調査	4
第3章 太平寺遺跡	5
95-2次調査	6
第4章 太平寺廃寺	8
95-1次調査	8
第5章 玉子山遺跡	13
95-1次調査	14
95-3次調査	14
95-4次調査	15
第6章 原山遺跡	16
95-2次調査	17
95-3次調査	17
第7章 口辺遺跡	18
95-1次調査	19
95-2次調査	21
95-3次調査	21
95-4次調査	22
95-5次調査	22
95-6次調査	23
95-7次調査	24
調査対象地図	25

插图目次

图-1	平野遺跡 調査対象地位置図	1
图-2	平野遺跡95-3次調査 土層模式図	2
图-3	平野遺跡95-3次調査 調査区位置図	2
图-4	大県南遺跡 調査対象地位置図	3
图-5	太平寺遺跡 調査対象地位置図	5
图-6	太平寺遺跡95-2次調査 調査区位置図	6
图-7	太平寺遺跡95-2次調査 南壁土層図	7
图-8	太平寺遺跡95-2次調査 出土瓦	7
图-9	太平寺廃寺95-1次調査 調査区位置図	9
图-10	太平寺廃寺95-1次調査 平面図・土層図	10
图-11	太平寺廃寺95-1次調査 出土遺物	11
图-12	太平寺廃寺95-1次調査 出土遺物	12
图-13	玉手山遺跡 調査対象地位置図	13
图-14	玉手山遺跡95-4次調査 調査区位置図	15
图-15	玉手山遺跡95-4次調査 土層略図	15
图-16	原山遺跡 調査対象地位置図	16
图-17	原山遺跡95-2次調査 調査区位置図	17
图-18	田辺遺跡 調査対象地位置図	18
图-19	田辺遺跡95-1次調査 調査区位置図	19
图-20	田辺遺跡95-1次調査 平面図・土層図	20
图-21	田辺遺跡95-2次調査 調査区位置図	21
图-22	田辺遺跡95-4次調査 調査区位置図	22
图-23	田辺遺跡95-6次調査 調査区位置図	23
图-24	田辺遺跡95-6次調査 平面図・土層図	23
图-25	田辺遺跡95-7次調査 調査区位置図	24
图-26	田辺遺跡95-7次調査 東壁土層略図	24
图-27	半尾山古墳群 調査対象地位置図	25
图-28	片山廃寺 調査対象地位置図	26

1995年度 柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
本郷95-1	本郷地内	102.80	柏原市長 山西敏一	下水道工事	北野	3.1・2	17㎡を調査。 弥生～古墳時代の遺構・遺物。
山ノ井95-1	山ノ井町649-1、 650-1	806.48	山下建設㈱ 山ノ井武次	宅地造成	安村	12.21	1.5×2×1.5mを調査。 遺構・遺物なし。
山ノ井95-2	山ノ井町663-1、 673-1	571.60	早川昭武、早川登世 早川市三郎	個人住宅建設	安村	12.21	1.5×2×1mを調査。 遺構・遺物なし。
平野95-1	法善寺4丁目251-3 他3筆	1,308.50	浅野雅裕	共同宿舍建設	石田	1.25	2.5×3×2.2mを調査。 弥生土器片が出土。
平野95-2	平野2丁目503-1	250	関西電力㈱大阪南支店 支店長 櫻山光伸	鉄塔建設	石田	3.13	3×3×2.5mを調査。 弥生～飛鳥時代の遺物。
平野95-3	平野2丁目469-3・ 4	892.11	田中建治 田中マス	個人住宅建設	安村	6.5	本書掲載。
大泉95-1	平野1丁目38-9・ 10・11・12	360.46	ライフシステム㈱ ㈱生田祐三	分譲住宅建設	石田	2.13	1.5×2×1.5mを調査。 遺構・遺物なし。
大泉95-2	大泉3丁目158-1	228.43	吉田明宏	倉庫建設	石田	2.22	1×2×1.6mを調査。 遺構・遺物なし。
大泉95-3	大泉3丁目158-3	228.43	金城基一	倉庫建設	石田	2.22	1×2×1.6mを調査。 遺構・遺物なし。
大泉95-4	平野1丁目29-1	3,683.22	柏原市長 山西敏一	便所建設	北野	6.12～ 6.16	3箇所、計6.5㎡を調査。 地表下1.6mで古墳～ 奈良時代の包含層。
大泉南95-1	大泉3丁目355-15	89.14	小泉正彦	個人住宅建設	安村	1.17	本書掲載。
大泉南95-2	大泉4丁目476-1	151.36	泉昌	個人住宅建設	安村	2.20	本書掲載。
大泉南95-3	大泉4丁目地内	797	大阪府八尾土木事務所 所長 本間義昭	砂防流路工	安村	11.14	2×4×1.5mを調査。 遺構・遺物なし。
大泉南95-4	大泉4丁目18番地先 ～太平寺2丁目1番 地先	1,159.1	柏原市長 山西敏一	道路建設	北野	12.18～	12月末現在調査継続中。
太平寺95-1	太平寺2丁目149	764.02	丸丸園 ㈱海老原英夫	共同住宅建設	石田	5.8～ 6.5	345㎡を調査。 弥生～近世の遺構・ 遺物。
太平寺95-2	太平寺2丁目251	243.95	太井地好 太井健作	個人住宅建設	安村	5.24	本書掲載。
太平寺95-3	太平寺2丁目403	347.08	中野工業㈱ ㈱中野修	共同住宅建設	石田	8.29	1×1.5×0.7mを調査。 遺構・遺物なし。
安堂95-1	安堂町218、219、230、 221-1、222-1の 一部	1,328.10	安尾三治	共同住宅建設	石田	4.10～ 8.11	501㎡を調査。 弥生～中世の遺構・ 遺物。
大泉郡桑甲95-1	法善寺4丁目214-1	921.69	山下文男	共同住宅建設	石田	3.28	1×2×2.5mを調査。 遺構・遺物なし。
太平寺橋95-1	太平寺2丁目347	269.12	西尾茂	個人住宅建設	安村 石田	3.27～ 3.29	本書掲載。
平尾山古墳群95-1	菅谷329 他4筆	1,019.76	山本ちよ	共同住宅建設	安村	4.17	1×2×1.2mを調査。 遺構・遺物なし。

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査日	備考
平尾山古墳群95-2	蓬多尾畑665 他27筆	29,517.02	三郷町長 中井弘己	墓地拡張工事	安村	5.16～ 5.29	4箇所、計40㎡を調査。 遺構・遺物なし。
平尾山古墳群95-3	平野815-甲地75筆	266,400	大阪府知事 中川和雄	森林整備工事	北野	6.26～ 8.31	29箇所、計900㎡を調査。 弥生～平安時代の遺構・遺物。
平尾山古墳群95-4	安堂1008～1022	3,975.90	社会福祉法人 寿光会 理事長 板倉直明	アイケア施設建設	石田	8.10	2×2×0.8mを調査。 遺構・遺物なし。
平尾山古墳群95-5	蓬多尾畑地内		大阪府八尾土木事務所 所長 本間義昭	道路改良工事	北野	10.26	1×12×0.5mを調査。 遺構・遺物なし。
平尾山古墳群95-6	安堂町791番地先	4,300	柏原市長 山西敏一	植栽工事	石田	11.15～ 11.29	2箇所、計18.4㎡を調査。 古墳時代の遺構・遺物。
平尾山古墳群95-7	安堂326-2	31	関西電力㈱大阪南支店 支店長 堀田浩二	鉄塔建替	石田	12.4～ 12.11	4箇所、計59.6㎡を調査。 古墳時代の遺構・遺物。
玉手山95-1	円明町491、492の一部	148.08	寺田悦久	個人住宅建設	安村	2.3	本書掲載。
玉手山95-2	円明町217-75他10筆	1,343.94	㈱人清建設 西辻内所	宅地造成	石田	9.29	3×3×0.5mを2箇所調査。 遺構・遺物なし。
玉手山95-3	玉手町286、287、288- 1・2、289-1・2、 297-1・2	236.36	仲克重 仲良江	個人住宅建設	安村	11.17	本書掲載。
玉手山95-4	玉手町364-30	368.02	鎌月邦年	個人住宅建設	安村	12.11	本書掲載。
片山庵寺95-1	片山町157-8	73.08	三上智恵	個人住宅建設	北野	5.26	1×2×1mを調査。 遺構・遺物なし。
願山95-1	旭ヶ丘3丁目4778- 1他	39,304.48	学校法人 玉手山学園 理事長 江藤文行	校舎建設	石田	3.3	2×3×0.8mを調査。 遺構・遺物なし。
願山95-2	旭ヶ丘3丁目4874- 33	95.06	池崎典幸	個人住宅建設	安村	9.25-26	本書掲載。
願山95-3	旭ヶ丘3丁目1067- 6の一部	311.54	垂野俊雄	個人住宅建設	安村	11.6	本書掲載。
田辺95-1	田辺1丁目1073-1 の一部	431.82	稲山典秀	個人住宅建設	安村	4.12	本書掲載。
田辺95-2	田辺1丁目2015-1	293.65	伊藤一明	個人住宅宅地造成	安村	5.17	本書掲載。
田辺95-3	田辺2丁目1294-1	144.48	福中 博	店舗付住宅建設	安村	5.22	本書掲載。
田辺95-4	田辺1丁目983、984	413.93	東 勝則	個人住宅建設	安村	5.23	本書掲載。
田辺95-5	国分本町7丁目1965- 1	200.83	青山光雄	個人住宅建設	安村	8.22	本書掲載。
田辺95-6	田辺1丁目985、986- 1・2	241.48	松井俊明	個人住宅建設	安村	10.31	本書掲載。
田辺95-7	国分本町5丁目561- 1・3・4	844.72	坂橋 司	個人住宅建設	安村	12.22	本書掲載。

(但し1995年1月1日から12月31日に着手したもの)

第1章 平野遺跡



図-1 調査対象地位置図

95-3次調査

- ・調査対象地 柏原市平野2丁目469-3・4
- ・調査期間 1995年6月5日
- ・調査面積 3.0㎡/852.11㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、旧国道170号線（東高野街道）の東側（山側）に位置し、標高は18m前後を測る。周辺のこれまでの調査では、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物等が出土しており、とりわけ、弥生時代の遺物の出土が目される地区である。犬と思われる動物のレリーフと盾を持つ人物の線刻画を描いた弥生土器片が出土して話題となった1993年度の下水道工事に伴う調査地点は、今回の調査地の北側100mに位置する。

調査は、建物建設予定地西端に沿って、1.5m×2mの調査区を設定して実施した。地表下約10cmまでは表土、それ以下60cmまでは淡褐色砂質土の盛土がみられる。その直下、すなわち地表下60cm以下には旧表土がみられ、既設建物は約60cmの盛土の上に建てられていたことを確認した。

建物基礎深度が約40cmであるため、旧表土面を確認したのみで、それ以下の掘り下げは行っていない。よって、当然のことながら遺構・遺物は出土していない。

平野遺跡は、これまでに調査例の少ない遺跡であるが、絵画土器の出土にみられるように、今後は注意していかねばならない遺跡である。

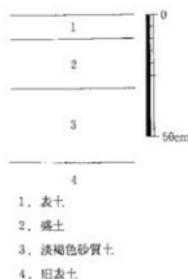


図-2 上層模式図

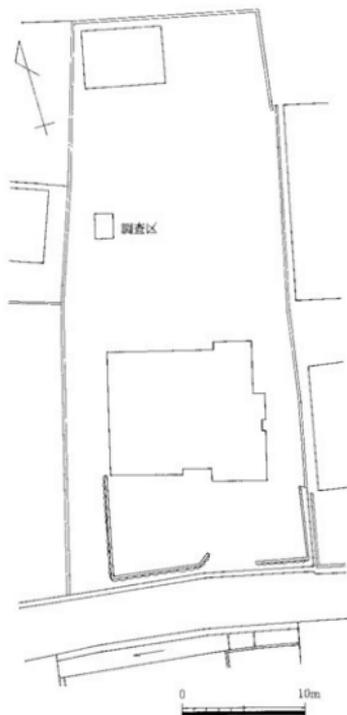


図-3 調査区位置図

95-1 次調査

- ・調査対象地 柏原市大泉3丁目355-15
- ・調査期間 1995年1月17日
- ・調査面積 1.0㎡/89.14㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、旧国道170号線の西約40mに位置する。調査対象地南端中央に、1m四方の調査区を設定し、調査を実施した。地表下約50cmまでは黄褐色砂礫土の盛土、その下に厚さ約10cmの黒灰色の耕作土がみられ、更にその下には厚さ約20cmの盛土（黄褐色細砂）、厚さ40cm以下の耕作土（淡黒灰色土）が続く。その直下、地表下95~120cm以下に淡黒灰色砂質土が存在し、埋土の状況からは遺物を含んでいる可能性も考えられるが、今回の調査では遺物は出土していない。

以上のように、地表下130cmまで掘り下げて調査を実施したが、遺構・遺物の出土はみられなかった。浄化槽の掘削深度が約1mであるため、それ以上の掘り下げは行わず、調査を終了した。

95-2 次調査

- ・調査対象地 柏原市大泉4丁目476-1
- ・調査期間 1995年2月20日
- ・調査面積 3.0㎡/151.36㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、生駒山地山麓部に位置し、標高36m、岩崎谷と呼ばれる谷の北岸に位置する。調査地の北西部では、1982年度に宅地造成に伴う発掘調査が実施され、大規模な整地層や大量の瓦が出土し、大泉南庵寺（山下寺跡）の寺域中心部にあたると判断された。よって、今回の調査地でも、大泉南庵寺に関連する遺構・遺物の出土が予想されるものであった。

調査地西側は、約3mの高さのブロック積擁壁が築かれ、造成時に削平を受けている。予定では、この高さまで掘り下げてガレージを築くことになっていたため、ガレージ予定地に1.5m×2mの東西方向に長い調査区を設定し、調査を実施した。土層は、表土、耕作土、床土の順に確認され、床土直下、地表下60cmで花崗岩の風化した地山に至った。耕作土や床土から、少量の土師器、須恵器、陶磁器が出土したが、時期を確認できる遺物は認められなかった。過去の水田造成時に地山まで大きく削平を受けているようであり、大泉南庵寺に関連するような遺構・遺物は全く確認できなかった。

第3章 太平寺遺跡

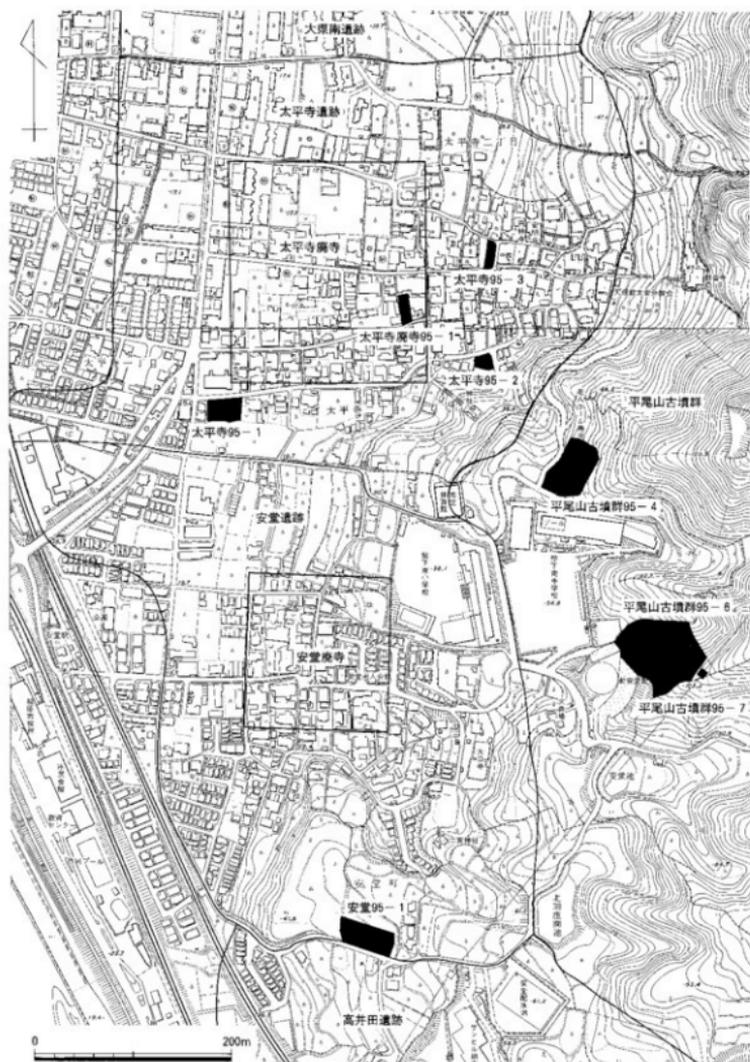


図-5 調査対象位置図

95-2次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺2丁目251
- ・調査期間 1995年5月24日
- ・調査面積 3.0㎡/243.95㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、牛駒山地西麓の西側斜面に位置し、標高約27mを測る。調査地西方には太平寺廃寺（智識寺跡）が位置し、南隣には式内社石神社が位置する立地条件にある。

調査区は、調査対象地の北西部分に1.5m×2mの規模で設定した。調査の結果、調査区東端では地表下15cmで地山に至るが、地山は西側へ緩やかに下がった後、垂直に近く落ち込んでおり、地表下180cmで平坦面となっていることを確認した。地山は花崗岩の岩盤であり、その形状から考えると、西側への落ち込みと平坦面は、人為的な掘削に伴う地形と考えられる。西側の土層は、下層から灰色砂質土、灰褐色砂質土と続くが、どちらも遺物を含んでいない。その上層の暗赤褐色砂質土は、花崗岩質の土層であり、段をなす地形を緩やかな傾斜にするために地山の花崗岩岩盤を削平し、流し込んだものと考えられる。

さらに上層には、暗黄褐色粘質土が一部にみられ、この土層を覆うように褐色砂質土がみられる。この褐色砂質土が唯一遺物を含む土層であり、土師器、須恵器、瓦、瓦器などが出土している。出土遺物は、奈良時代から中世にかけてのものであり、中世の遺物包含層である。

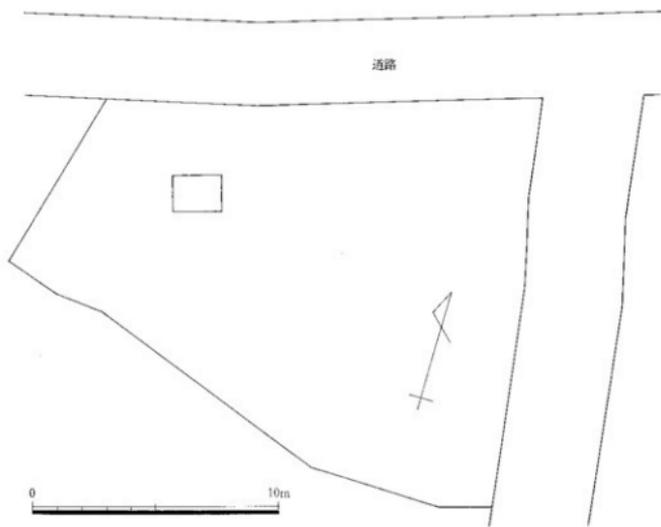


図-6 調査区位置図

遺物の出土が顕著でないため、西側の落ち込みの時期、性格を明らかにすることはできなかった。また、遺物包含層である褐色砂質土の存在から、調査地東方に奈良時代から中世にかけての居住地が存在するのではないかと考えられる。

出土遺物は、いずれも小片であり、ここでは平瓦片3点のみを紹介する。

1～3は、縄叩き目を施した平瓦である。縄叩きは、いずれも縦方向に施され、1cmあたり4本の細目を有する。凹面には布目がみられ、布目は比較的粗い。1は、縄叩き目を一部板状工具によって擦り消しており、指頭痕も残っている。側縁に沿って粘土の接合痕がみられるので、おそらく桶巻作りであろう。2・3は、凹面や側縁の状態から、一枚作りであろう。

いずれも奈良時代前後の平瓦と考えられ、その頃に智識寺に付属する何らかの建物が調査地東方付近に存在したことを示すのではないかとと思われる。

調査地付近では、これまでにあまり遺物の出土をみておらず、今回の調査によって、奈良時代から中世にかけて、智識寺の付属施設が存在したことが推定されるという成果があった。今後、その範囲の確認などが課題となってくるであろう。



図-7 南壁十層図



図-8 出土瓦

第4章 太平寺廃寺

95- 1次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺2丁目347
- ・調査期間 1995年3月27日～29日
- ・調査面積 26.7㎡/269.12㎡
- ・調査担当者 安村俊史・石田成年

調査地は、生駒山地西麓の扇状地上に立地し、現在の太平寺集落のほぼ中央に位置する。調査地の西側には薬師寺式伽藍配置をとる太平寺廃寺（智識寺）があり、調査地は太平寺廃寺の推定寺域内東限近くに当たると思われる。

個人住宅建築に先立って、建物建築予定地南東部に、1.5m×2.0mの調査区を設定し、試掘調査を実施したところ、地表下40cm以下に多量の瓦などを含む遺物包含層が確認されたため、現地にて施工業者と協議し、遺物包含層まで掘削が達する建物主柱の部分のみ、引き続いて調査に着手することになった。調査に際しては、年度末ということもあり、施工業者から重機の協力を得て、速やかに実施することとした。

調査は8箇所で行われ、北東部分から南西部分へかけて、それぞれ1～8区とした。

1区は1.5m×1.8m、深さ60cmまで掘削。湿地状の埋土を呈しており、少量の瓦が出土。現在も水路がすぐ北側を流れており、これに関係する埋土であろう。

2区も1.5m×1.8m、深さ40cmまで掘削。調査区の東側と西側で、それぞれ溝状を呈する遺構を検出、おそらく南北方向に延びる溝と考えられるが、1区では確認できていない。埋土は灰褐色砂質土で、多量の瓦が出土している。両溝の間には直径10cm前後の円形ピットがみられる。灰褐色土の上面から切り込まれているようである。土師器皿（2）、軒丸瓦（10・12）、平瓦（14～16・18・20）、凝灰岩片（21）などが出土している。

3区は2.0m×2.0m、深さ80cmまで掘削。大きく攪乱を受けており、少量の瓦、陶磁器などが出土しているのみである。

4区は1.5m×2.4m、深さ60cmまで掘削。瓦、土師器などが出土している。

5区は1.5m×1.8m、深さ80cmまで掘削。大きな攪乱坑がみられ、その底に直径50cm前後の花崗岩が置かれていた。加工面は認められなかったが、その形状から礎石の可能性も考えられる石材である。瓦のほか、土錘（9）などが出土している。

6区は1.8m×1.8m、深さ70cmまで掘削。南東部に花崗岩の石材3点を並べた遺構が検出され、北端の石材上面は熱を受けて赤変していた。石材は瓦器を含む灰褐色砂質土に覆われており、中世の遺構と考えられる。平坦な面を外側に向けており、検出された遺構は、何らかの施設に伴うもので、その北西隅に当たると思われる。遺構の周辺からは少量の瓦が出土している。

7区は1.6m×1.7m、深さ50cmを測る。大きく攪乱を受けており、既設建物のコンクリート基礎が残っている。遺物の量は少なく、土師器皿（1・3）、瓦器（4～6）などが出土している。

8区は1.3m×1.6m、深さ50cmを測る。やはり大きく攪乱を受けており、コンクリート基礎が残っている。瓦、陶磁器（8）などが出土している。

遺物は、須恵器、土師器、瓦器、陶磁器、土鍾、瓦などが出土している。

土師器皿（1・2）は、稜をなして口縁が外方へ立ち上がるもの（1）と体部から直線的に口縁が広がるもの（2）がみられる。外面は（1）がナデ、（2）が指頭調整、口縁部はどちらもヨコナデ調整である。ともに口径は13.4cmを測る。

土師器小皿（3）は、軽い2回からなるヨコナデが施される。口径8.9cm。

（4・5）は和泉型の瓦器碗。（4）は内面に線刻状の平行線暗文に粗いヘラミガキ調整が施され、高台をともなう。（4）の体部外面には指頭痕が残り、2

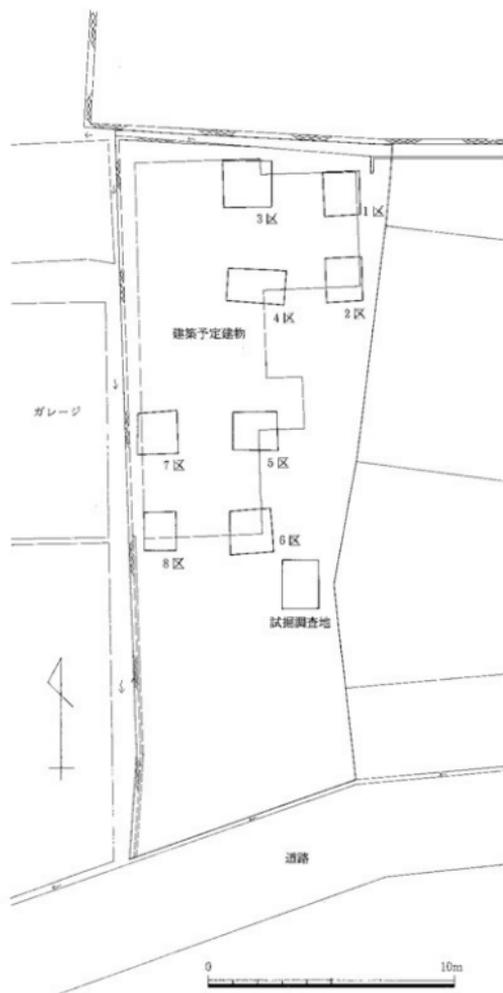


図-9 調査区位置図

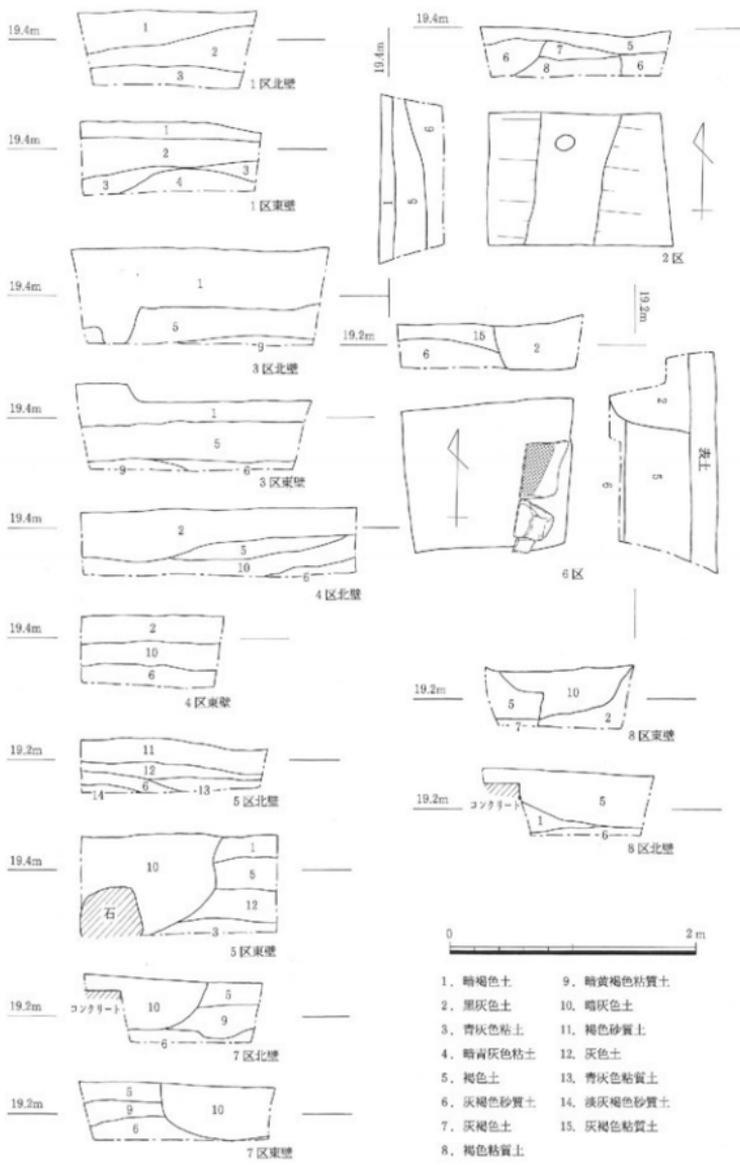


図-10 平面図・土層図

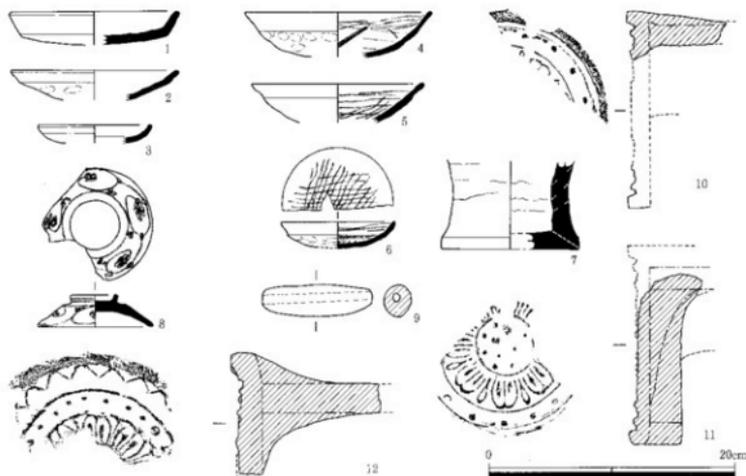


図-11 出土遺物

次焼成を受けて赤変している。(4)は口径15.1cm、(5)は13.8cm。

(6)は瓦器小皿。見込みに格子状暗文、口縁部内面には粗いヘラミガキが施される。口径9.0cm、器高2.2cm。

(7)は平底から筒状の体部がやや外開きになる形態を呈する。壺であろうか。内外面に灰釉がかかり、粘土継ぎ目も明瞭である。底径11.2cm。

(8)は伊万里焼の蓋。全面に施釉が施され、草花文様が描かれている。

(9)は完形の土鋸。白黄色を呈する。長さ8.8cm、最大径2.2cm、孔径0.7cm、重さ55.5g。

(10～12)は複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。(10)は外傾する外縁をもち、外区内縁には16個前後からなる珠文がある。丸瓦部との接合は、丸瓦の広端部外面を削り、瓦当裏面に当て、その上下に粘土を補充したものであるが、凹面側の粘土は剥落している。(11)は中房に1+4+8の蓮子を配し、先端部でつぼみ状にふくらむ間弁がみられる。瓦当裏面には厚い補充粘土がみられる。(10・11)は同型、おそらく同范の軒丸瓦であろう。推定復元径16.2cm、内区径10.8cm、中房径4.8cmを測る。(12)の外区内縁には、間隔が一定しないが24個前後の珠文、外縁には線鋸齒文がある。蓮弁は短く、間弁は中房に達する。推定復元径19.8cm、内区径9.8cm、中房径4.9cmを測る。

(13～20)は平瓦。(13)は板ナデの後に有軸綾杉の叩き、(14)は有軸綾杉の叩きを重ねて叩いたものである。(15)は縦方向に縄叩きを施すが、2.5～3本/cmとやや粗いものである。縄叩き目は一部を板ナデで擦り消しており、凹面には模骨痕、粘土板の継ぎ目がみられる。(16)の凸面には3.5本/cmの縄叩きを縦方向に施し、一部でナデがみられる。凹面には模骨痕がみられ、隅部が斜めに切り落とされている。(17)の凸面には3.5本/cmの縄叩きを縦方向に施し、一部にナデ。凹面

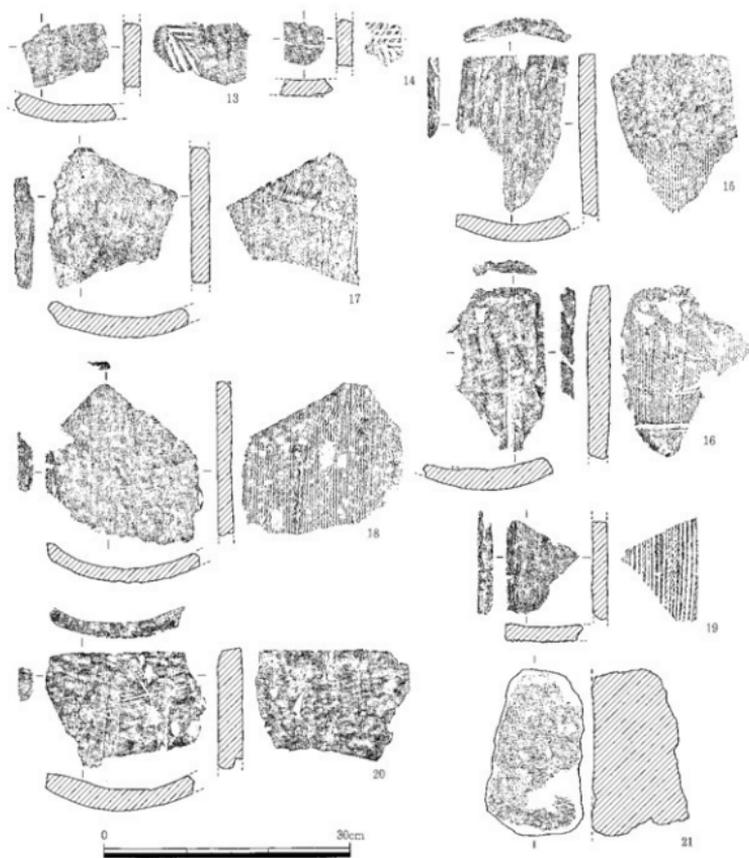


図-12 出土遺物

には糸切り痕がみられる。(18)には3本/cmのやや粗い縄叩き、(19)には縦方向の2本/cmの粗い縄叩きが施される。(20)は凸面に一定方向のヘラケズリ、凹面には乱方向のヘラケズリが施される。(13~16)は桶巻作り、(17~20)は一枚作りであろう。

(21)は基壇材であろう。平坦面を残すが、一面以外はすべて破損。二上山の牡丹洞産の凝灰岩である。重さ1512.1gを測る。

調査地は、智識寺東限近くに位置し、多量の瓦や基壇材の出土は、寺院関係の建物に伴うものと考えられる。おそらく、これらの遺物を含んでいる土層は、中世に相当するものと思われ、その時期に大規模な整地がなされているようである。

第5章 玉手山遺跡



图-13 調査対象地位置図

95-1 次調査

- ・調査対象地 柏原市円明町491、492の一部
- ・調査期間 1995年2月3日
- ・調査面積 2.3㎡/148.08㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、円明の集落内に位置し、標高30m、西側へ緩やかに下る傾斜地にあたる。南東には式内社である伯太姫神社が鎮座し、その南側では、過去に奈良時代から平安時代にかけての火葬墓群が確認されている。

調査は、調査対象地東寄りの浄化槽予定地に1.5m四方の調査区を設定して実施した。地表下120cmまでは、多量の巨石が混入した褐色の盛土層であり、掘り下げには難渋した。その下には、暗黄褐色粘質土がみられるが、この層も現代の物を含んでおり、最近の盛土であることが確認された。この層を地表下140cmまで掘り下げたが、更に下へ続いており、工事による埋蔵文化財への影響はないと判断し、調査を終了した。おそらく、既存建物建設の際に、かなり大規模な盛土工事が実施されたのであろう。

95-3 次調査

- ・調査対象地 柏原市玉手町286、287、288-1・2、289-1・2、297-1・2
- ・調査期間 1995年11月17日
- ・調査面積 2.3㎡/236.35㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、玉手山丘陵の西麓にあたり、安福寺の参道に至る道路の南側に位置する。

調査は、調査対象地北東部に1.5m四方の調査区を設定して実施した。地表下20cmまでは表土、その下に灰色粘質土がみられ、少量の土師器、瓦が出土している。いずれも中世の遺物と考えられるが、遺構は認められなかった。灰色粘質土を地表下60cmまで掘り下げ、更に下に続いていることを確認し、調査を終了した。地表下50cm以下では湧水もみられ、おそらく灰色粘質土は中世以後の水田耕作に伴う土層と考えられる。

95-4次調査

- ・調査対象地 柏原市玉手町364-30
- ・調査期間 1995年12月11日
- ・調査面積 3.8㎡/348.02㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、玉手山丘陵の稜線上に位置し、標高58mを測る。調査地の北東には玉手山3号墳が現存し、西には宅地造成によって消滅した玉手山4号墳が存在する地にあたる。よって、古墳に関連する遺構が残存する可能性も考えられた。

調査は、施工業者から重機の協力を得て、1.5m×2.5mの調査区を設定して実施した。調査区周辺は大きな攪乱を受けているようであり、南西方向に攪乱は深くなる。この攪乱によって削平された土層は、暗赤褐色粘質土と暗黄褐色粘質土であり、両層ともに遺物が出土していないため時期は不明であるが、最近の盛土であろう。それ以下は地山と考えられ、上層から凝灰岩質の灰白色砂質土、青灰色粘土、黒灰色粘土と続く。

深さ180cmまで掘り下げ、黒灰色粘土が更に続いていることを確認し、調査を終了した。土層から判断すると、調査地周辺は削平、盛土が繰り返し行われ、本来の地形を留めていないようである。遺構・遺物は全く確認できなかった。

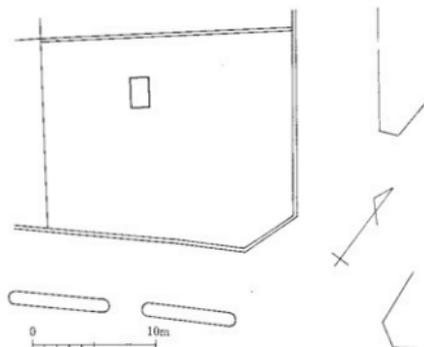


図-14 調査区位置図

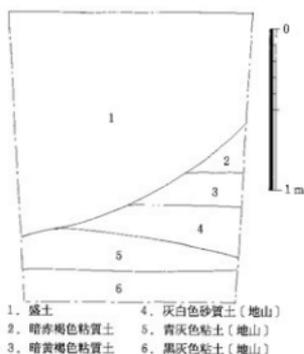


図-15 土層略図

第6章 原山遺跡

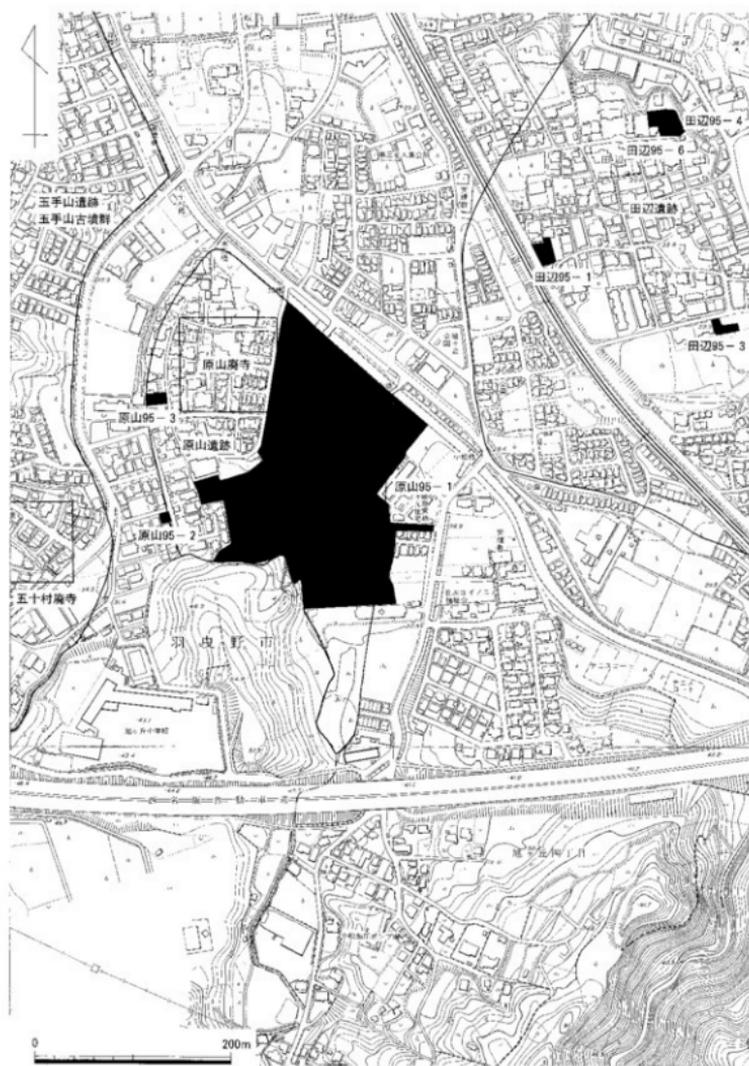


图-16 調査対象地理位置图

95-2次調査

- ・調査対象地 柏原市旭ヶ丘3丁目4874-33
- ・調査期間 1995年9月25・26日
- ・調査面積 $4.0\text{m}^2/95.06\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、原山遺跡の南西端に位置し、西へ下る傾斜変換点にあたる。

調査は、調査対象地北西部の浄化槽予定地に2m四方の調査区を設定して実施した。土層は上層から、表土、淡黄灰色砂質土、褐色粘上、青灰色粗砂、褐色砂質土と続き、各層の層厚は25cm前後である。地表下110cm以下、褐色砂質土下層からは湧水が認められた。湿地状の土地に70cm以上の厚さの盛土を施して整地しているようである。遺構・遺物は全く認められなかった。

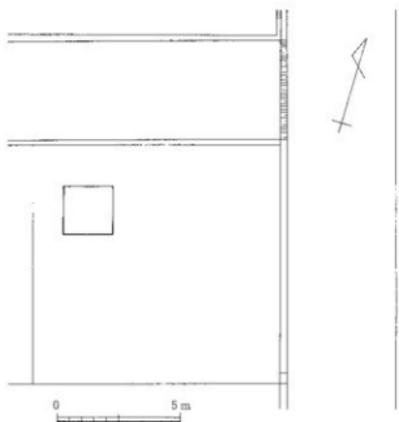


図-17 調査区位置図

95-3次調査

- ・調査対象地 柏原市旭ヶ丘3丁目1067-6の一部
- ・調査期間 1995年11月6日
- ・調査面積 $3.0\text{m}^2/311.54\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、原山遺跡の西端、西へ下る傾斜変換点にあたり、95-2次調査区の北120mに位置する。調査地のすぐ東側の台地上は、原山廃寺の推定寺域となっており、これまでの調査で中心伽藍の位置こそ確認できていないものの、多量の瓦を始めとする遺物が出土している。

調査は、調査対象地の南東部に1.5m×2mの調査区を設定して実施した。調査の結果、地表下50cmまで掘り下げたが、現代の盛土層が続いており、遺物包含層・地山は確認できなかった。盛土内から少量の瓦が出土しているが、2次堆積によるものである。工事基礎は盛土内に納まるため、これ以上の掘り下げは行わず、調査を終了した。

調査前は、寺院関連遺構や瓦の出土を予想していたが、本来の地形は調査地東側の道路を境に、急激に西側へ落ち込んでおり、後世に大規模な盛土が実施されているようである。

第7章 田辺遺跡

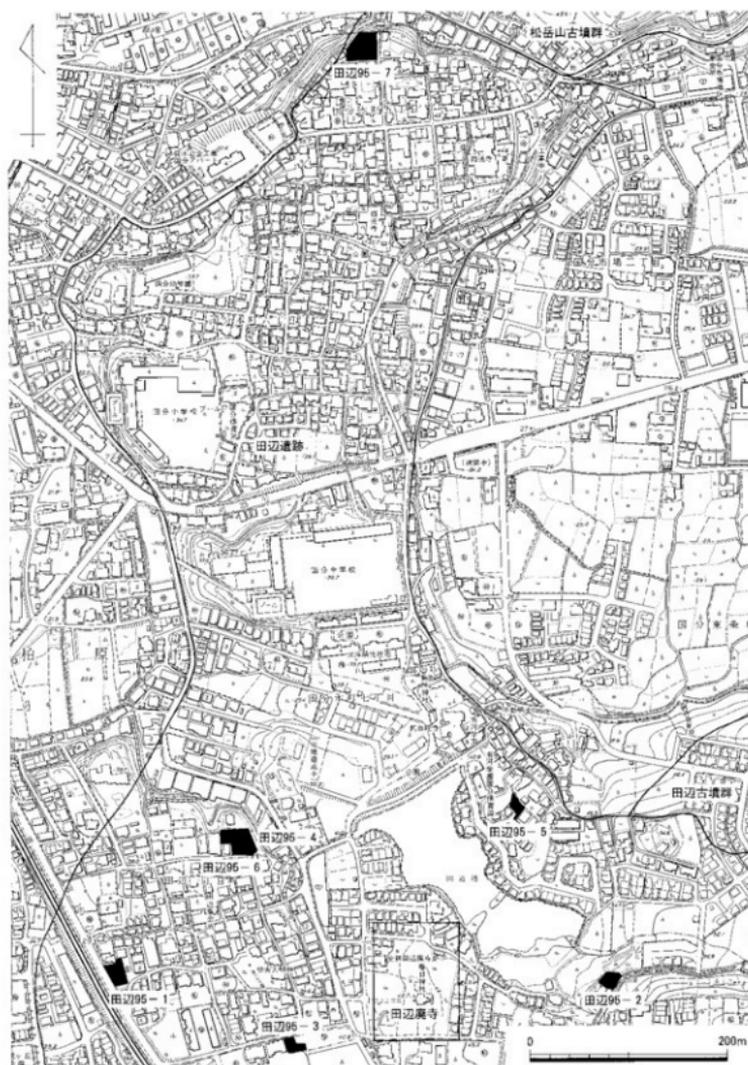


图-18 調査対象地位置图

95-1次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1丁目1073-1の一部
- ・調査期間 1995年4月12日
- ・調査面積 2.0㎡/431.82㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、国道165号線に面し、道路面より約2m高い位置にあたる。調査は、調査対象地の北端近く、浄化槽予定地に1m×2mの調査区を設定し、調査を実施した。調査の結果、地表下40cm前後で黄褐色粘質土の地山に至り、その間の埋土は、表上と淡褐色砂質土がそれぞれ約20cmの厚さを測っている。



図-19 調査区位置図

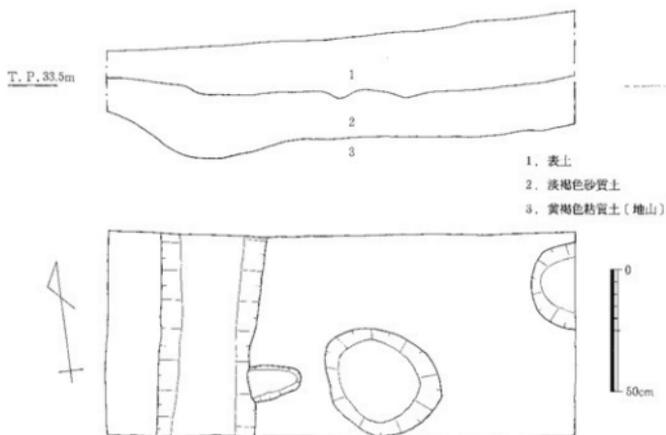


図-20 平面図・土層図

地山面にはビット2個、溝1条が検出された。東側のビットは直径36cmの円形平面を呈し、東半は調査区外へ続いている。深さは7cmを残すのみである。

調査区中央のビットは直径44cmの円形平面を呈し、深さは18cmを測る。

調査区西端の溝条遺構は、等高線と平行に南北方向へ延びている。幅は40cm前後、長さは84cm以上、深さは最大9cmで底面は北側へ下がっているようである。なお、東側には小さい枝溝状の遺構が取り付く。

遺構内からは全く遺物が出土していないが、いずれも淡褐色砂質土を埋土としており、淡褐色砂質土からは、少量ではあるが、土師器、須恵器、サヌカイト片が出土しており、土師器、須恵器は奈良時代から中世頃にかけてのものと思われ、遺構も中世の遺構かと思われる。

遺構が検出されたが、建物基礎深度が現況地表面より高くなるため、調査区の拡張は行わず、浄化槽予定地のみの調査に留めた。

95- 2次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1丁目2015-1
- ・調査期間 1995年5月17日
- ・調査面積 3.8㎡/293.65㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、田辺池の南東部の傾斜地に位置する。西側200mには国史跡に指定されている田辺廃寺が存在し、寺院に伴う居住域が広がっていると予想される地域である。

調査は、調査対象地の南西部に1.5m×2.5mの調査区を設定して実施した。調査の結果、地表下30～45cmで黄褐色粘土の地山に至り、地山までは褐色粘質土の単一層である。地山面は東側が高く、西側が低くなっており、現地形に沿って西側へと傾斜している。遺構・遺物は全く確認できなかったため、調査範囲を拡張せずに調査を終了した。

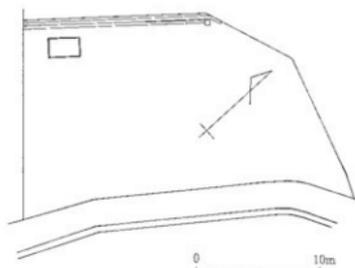


図-21 調査区位置図

95- 3次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺2丁目1294-1
- ・調査期間 1995年5月22日
- ・調査面積 2.3㎡/144.48㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、国史跡田辺廃寺の西80mに位置し、以前は池であった土地であるが、田辺廃寺に近いため、調査を実施することにした。

調査は、調査対象地西寄りに、1.5m四方の調査区を設定して実施した。調査の結果、地表下30cmまでは暗赤褐色砂質土の盛土、その下にアスファルト塊等の混入した灰色砂質土の盛土がみられた。どちらの埋土も、最近実施された池の埋め立てに伴う埋土と考えられる。地表下60cmまで掘り下げ、更に盛土が続いていることを確認し、調査を終了した。当然のことながら、遺構・遺物は確認していない。

95-4 次調査

- ・調査対象地 柏原市口辺1丁目983、984
- ・調査期間 1995年5月23日
- ・調査面積 3.0㎡/413.93㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、国史跡田辺廃寺の北西200mに位置し、北・東側へ大きく落ち込む台地端部に立地する。

調査は、調査対象地南寄りに、1.5m×2mの南北に長い調査区を設定して実施した。調査の結果、地表下70cmで暗黄褐色粘質土の地山に至り、地山面まですべて現代の盛土である。過去の建物建築に伴って地山を大規模に削平し、その後再び盛土が施されているようである。遺構・遺物は全く認められなかった。

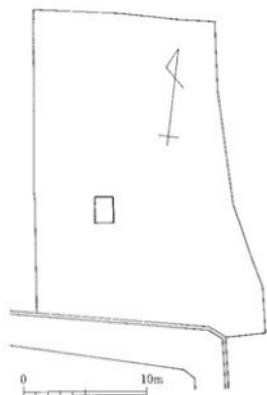


図-22 調査区位置図

95-5 次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町7丁目1965-1
- ・調査期間 1995年8月22日
- ・調査面積 3.0㎡/200.83㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、田辺池の北東部台地上に位置する。1982年度の南側隣接地での調査では、6世紀から7世紀にかけての竪穴住居2軒などが検出され、土器、砥石、鉄滓、鉄片などが出土している。また、池の岸には、かつて瓦窯が2基存在していたが、工事によって破壊され、現存しない。以上のような周辺での調査結果から、当該調査地にも遺構が存在する可能性が高いと考えられた。

調査は、調査対象地の北西部に、1.5m×2mの東西に長い調査区を設定し、実施した。その結果、調査区の東半では地表下25cmで、西半では60cmで明黄褐色粘質土の地山が検出された。すなわち、東側が高い段状の地形を呈するものであり、その境界には浅い溝状の施設が認められた。これは、地形図に認められる2筆の畑の境界線が調査区上を通っていることによるものと考えられ、最近までの耕作に伴う地形と溝と考えられる。また、調査対象地東端付近では、現地表面に地山が露出しており、調査地付近は過去に大規模な削平を受けているようである。遺構・遺物も全く認められなかった。

95-6 次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1丁目985、986-1・2
- ・調査期間 1995年10月31日
- ・調査面積 2.3㎡/241.48㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、95-4次調査の西側隣接地にあたり、北側は大きく落ち込んだ台地端部に位置する。

調査は、調査対象地の南寄りに、1.5m四方の調査区を設定して実施した。調査区東端では地表下26cm前後で黄褐色粘質土の地山に至り、調査区中央付近から西側へ落ち込んで、西端では54cm前後の深さを測る。落ち込みの埋土は下層から褐色粘質土、焼土を多量に含む赤褐色砂質土、炭・灰を含む黒灰色土である。落ち込み内からは、モルタル製のブロック状の破片が多数出土しており、このブロックを使用した窯状の施設が存在した跡ではないかと考えられる。

調査区南端では、この落ち込み内の埋土は、より複雑な状況を示しており、最下層に黄灰色の砂質土がみられ、焼土は2層に分層でき、その間に地山と同質の暗黄褐色粘土が薄く挟まれている。おそらく、除湿のために砂質土を敷き、褐色粘質土で床面を整形した後、ブロックを積み上げて窯状の施設を造ったものであろう。焼土は焼成に伴うものと考えられ、焼土間に認められる暗黄褐色粘土層は2次的な床面の整形に伴うものであろう。

この窯状施設は、使用されていたブロックから明治時代以降のものと考えられるが、その構造、および用途は全く不明である。また、落ち込みの肩部から直径30cmのピットが1個検出されているが、このピットも窯状施設に伴うものと考えられる。北側、すなわち傾斜の低い側を焚口とする何らかの施設であろう。

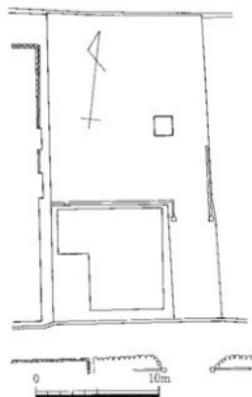


図-23 調査区位置図

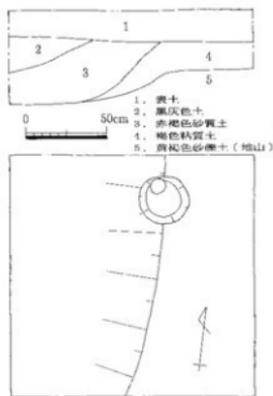


図-24 平面図・土層図

95-7次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町5丁目551-1・3・4
- ・調査期間 1995年12月22日
- ・調査面積 2.3㎡/844.72㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、北および西側が約10mの比高差で大きく落ち込む台地の端部にあたり、田辺遺跡の北端部に位置している。

調査は、便槽予定地に1.5m四方の調査区を設定して実施した。その結果、調査区南端では地表下15~30cmで明黄褐色粘質土の地山が検出されるが、北側へは大きく地山が落ち込んでおり、地表下70cmの深さを測る。地山が落ち込んでいる部分には灰褐色粘質土の堆積がみられ、少量の土師器片が出土している。土師器片は、奈良時代から中世頃の遺物と思われるが、二次堆積に伴う遺物であろう。

地山は現地地形に即した状態で北へ落ち込んでいる。おそらく、調査地付近が田辺遺跡の北端にあたると思われるが、地山面は過去に相当削平を受けているようであり、今回の調査では、遺構は確認できなかった。

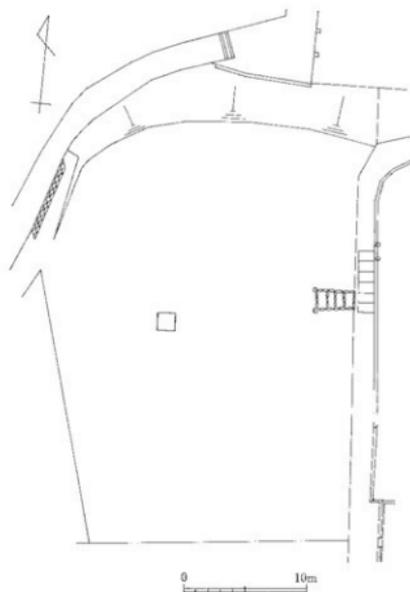


図-25 調査区位置図

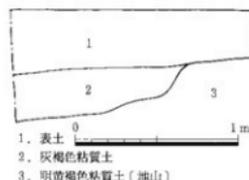


図-26 東壁土層略図



图-27 平尾山古墳群調査対象地位置図

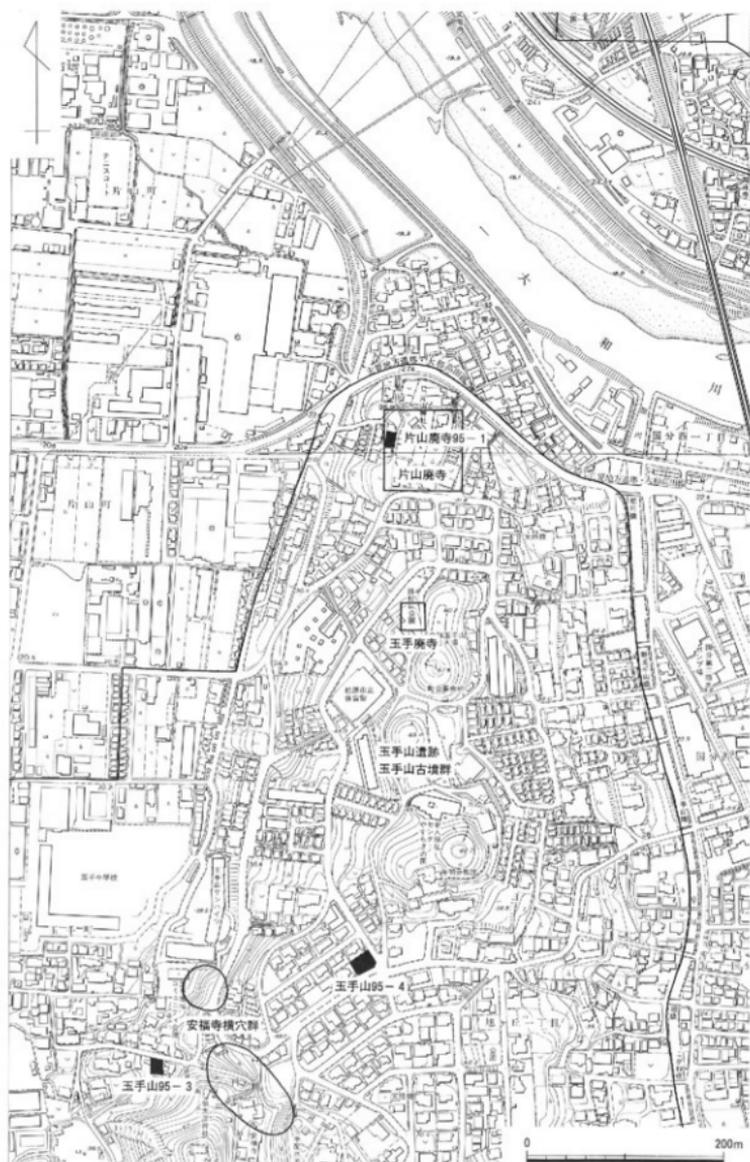
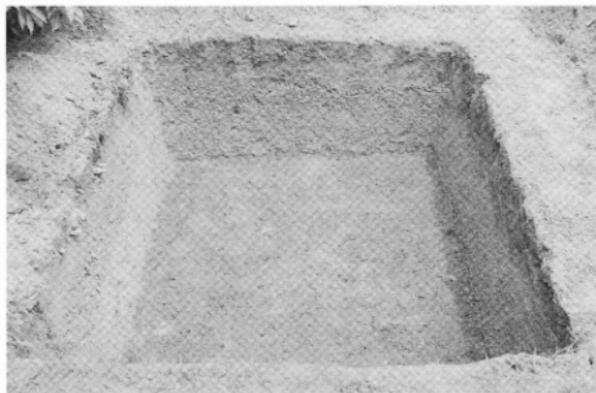
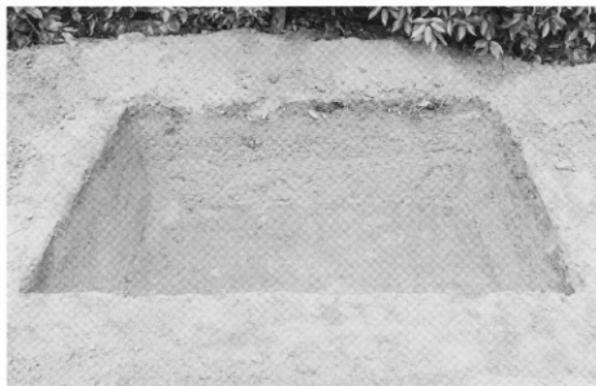


图-28 片山庵寺調査対象地位位置図

圖 版



調査区（南から）



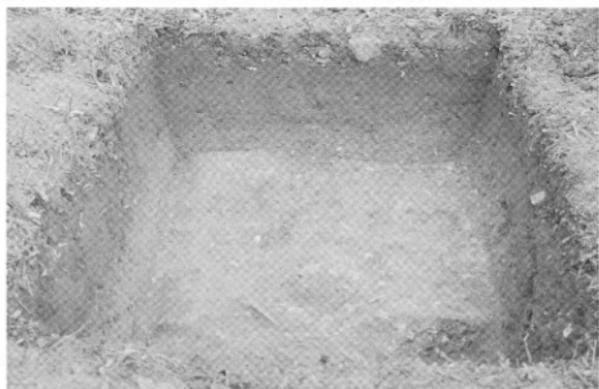
調査区（東から）



調査区全景
（南から）



95-1次調査区
(南から)



95-2次調査区
(西から)



95-2次調査区
(東から)



調査区（北から）



調査区（南から）



調査区全景
（東から）



調査区全景
(南から)



1~4区
(西から)



5~8区
(南から)



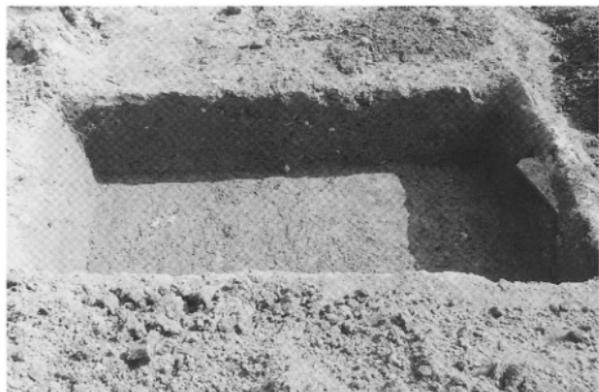
1区(北から)



2区(北から)



3区(北から)



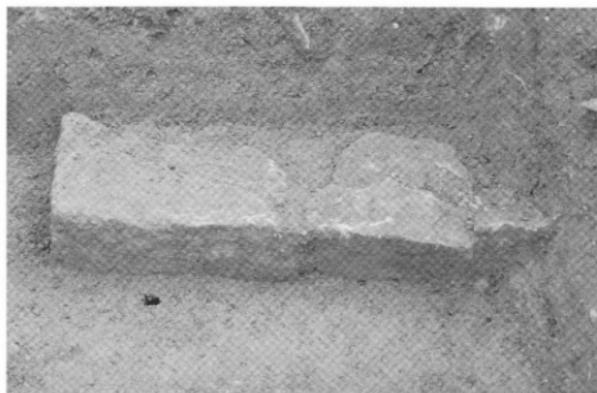
4区 (北から)



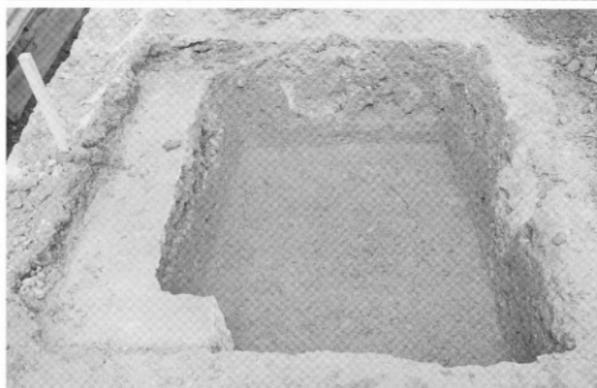
5区 (南から)



6区 (南から)



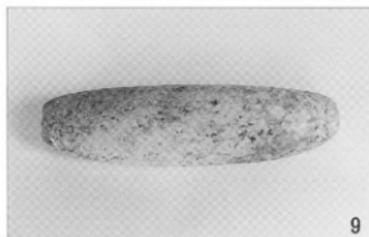
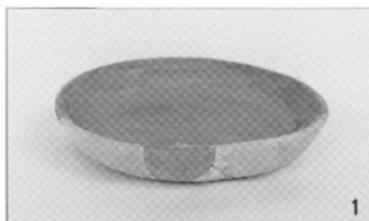
6区遺構
(西から)

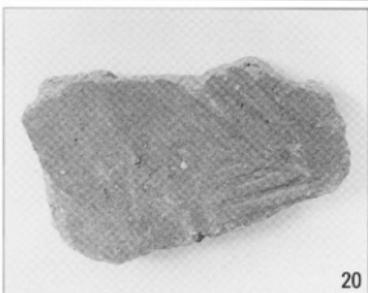
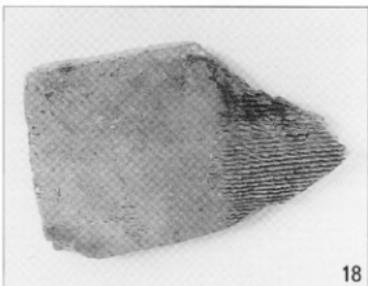
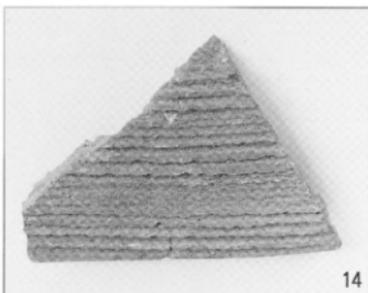


7区(南から)



8区(南から)



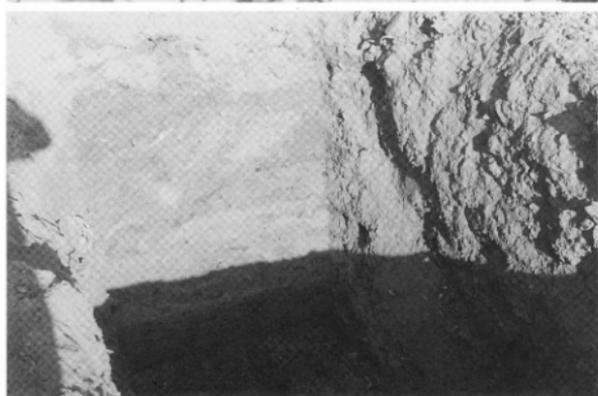




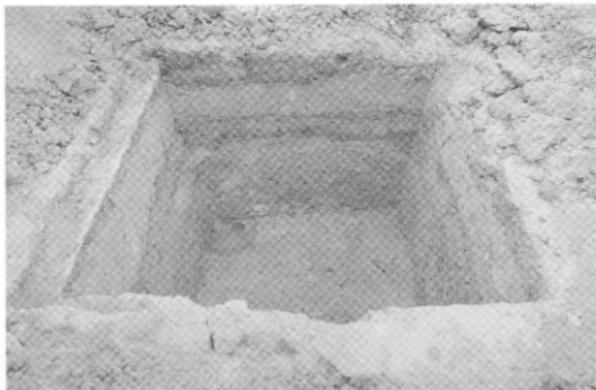
95-1次調査区
(西から)



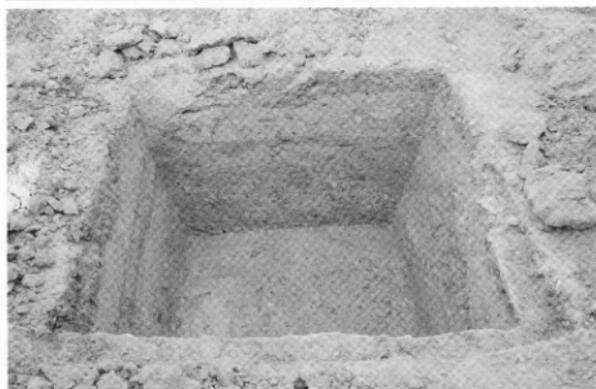
95-3次調査区
(西から)



95-4次調査区
(南から)



95-2 次調査区
(東から)



95-2 次調査区
(南から)



95-3 次調査区
(西から)



調査区（西から）



調査区（東から）



調査区（南から）



95-2次調査区
(北から)



95-3次調査区
(南から)



95-4次調査区
(南から)



95-5 次調査区
(南から)



95-6 次調査区
(南から)



95-7 次調査区
(西から)

報告書抄録

ふりがな	かしわらしまいぞうふんかざいほくつちょうきがいほう							
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報1995年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名	柏原市文化財概報							
シリーズ番号	1995-1							
編著者名	安村俊史							
編集機関	柏原市教育委員会							
所在地	〒582 大阪府柏原市安堂町1番43号 TEL 0729-72-1501							
発行年月日	1996年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平野	大阪府柏原市 平野2丁目	27221	HN95-3	34度 35分 30秒	135度 38分 12秒	19950605	3.0	個人住宅建設
大泉南	大阪府 大泉3丁目	27221	OGM95-1	34度 35分 04秒	135度 38分 00秒	19950117	1.0	個人住宅建設
大泉南	大阪府 大泉4丁目	27221	OGM95-2	34度 35分 02秒	135度 38分 14秒	19950220	3.0	個人住宅建設
太平寺	大阪府 太平寺2丁目	27221	TG95-2	34度 34分 45秒	135度 38分 11秒	19950524	3.0	個人住宅建設
太平寺施寺	大阪府 太平寺2丁目	27221	TGT95-1	34度 34分 47秒	135度 38分 08秒	19950327~ 19950329	26.7	個人住宅建設
玉手山	大阪府 丹羽町	27221	TY95-1	34度 33分 24秒	135度 37分 39秒	19950203	2.3	個人住宅建設
玉手山	大阪府 玉手町	27221	TY95-3	34度 33分 37秒	135度 37分 52秒	19951117	2.3	個人住宅建設
玉手山	大阪府 玉手町	27221	TY95-4	34度 33分 41秒	135度 38分 00秒	19951211	3.8	個人住宅建設
原山	大阪府 旭ヶ丘3丁目	27221	HY95-2	34度 33分 17秒	135度 38分 16秒	19950925~ 19950926	4.0	個人住宅建設
原山	大阪府 旭ヶ丘3丁目	27221	HY95-3	34度 33分 21秒	135度 38分 16秒	19951106	3.0	個人住宅建設

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
田 辺	田辺1丁目	27221	T B 95-1	34度 33分 26秒	135度 38分 31秒	19950412	2.0	個人住宅建設
田 辺	田辺1丁目	27221	T B 95-2	34度 33分 25秒	135度 38分 51秒	19950517	3.8	個人住宅建設
田 辺	田辺2丁目	27221	T B 95-3	34度 33分 23秒	135度 38分 38秒	19950522	2.3	店舗付住宅建設
田 辺	田辺1丁目	27221	T B 95-4	34度 33分 30秒	135度 38分 36秒	19950523	3.0	個人住宅建設
田 辺	国分本町7丁目	27221	T B 95-5	34度 33分 31秒	135度 38分 47秒	19950822	3.0	個人住宅建設
田 辺	田辺1丁目	27221	T B 95-6	34度 33分 30秒	135度 38分 36秒	19951031	2.3	個人住宅建設
田 辺	国分本町5丁目	27221	T B 95-7	34度 33分 56秒	135度 38分 41秒	19951222	2.3	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平野	集落		なし	なし				
大泉南	集落		なし	なし				
大泉南	集落	不明	なし	土師器、須恵器、磁器				
太平寺	集落	奈良～中世	なし	土師器、須恵器、瓦、瓦器				
太平寺庵寺	寺院跡	飛鳥～近世	溝、ピット	瓦、土師器、須恵器、瓦器				
玉手山	集落		なし	なし				
玉手山	集落	中世	なし	土師器、瓦				
玉手山	集落		なし	なし				
原山	集落		なし	なし				
原山	集落	奈良	なし	瓦				
田辺	集落	奈良～中世	ピット、溝	土師器、須恵器				
田辺	集落		なし	なし				
田辺	集落		なし	なし				
田辺	集落		なし	なし				
田辺	集落		なし	なし				
田辺	集落	奈良～中世	なし	土師器				

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1995年度

編集・発行 柏原市教育委員会

〒582大阪府柏原市安堂町1番43号

電話(0729)72-1501 内線5133

発行年月日 平成8年3月29日

印刷 東洋紙業高速印刷株式会社

